

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 8月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501166
法人名	社会福祉法人 敬友会
事業所名	さくらの里グループホーム
所在地	群馬県太田市中根町 295-1 (電話) 0276-32-1126
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5
訪問調査日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(20年7月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平家建 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	320 円
	夕食	530 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月13日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	林外科 堀江病院 くろいわ内科 伊丹歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生活時間の一番長い共用空間は明るくて窓からの眺望も良く、そこにはゆったりとした時間が流れており、利用者が居心地良く、一人ひとりのペースで過ごせるようにとの配慮が伺えた。周囲には田園風景が広がって常に季節の移ろいが感じられ、時折通る電車等を眺めながら生活している。運営者・管理者・職員は自己評価および外部評価を実施する意義を理解しており、前回の外部評価の結果を踏まえて、出来ることから改善に取り組み、殆どの項目をクリアし、更なる努力を続けてより良いホーム作りに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の見直し・地域との付き合い・自己評価の全員での取り組み・運営推進会議の定期的開催・市町村との連携・同業者との交流・災害対策・居室の配慮等については改善に取り組みほぼクリアされている。介護計画の見直し・重度化や終末期に向けた共通の方針等については話し合いは持たれたがまだ課題が残されている。</p>
	<p>今回の自己評価は管理者と職員全員で話し合っ作成したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の評価結果を踏まえて定期的に開催している。事業者からホームの状況、利用者の様子、外部評価の報告等を行い、会員からは意見や要望を聞いて意見交換をしている。会員から災害時の避難の問題やホームを理解してもらうために回覧板の利用についての話題が出、それらの意見をサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に何でも気軽に話の出来る雰囲気が出ており、家族の意見や要望を聞き、職員で話し合い要望等に沿った支援を心掛けている。ある利用者の家族から食べ物についての要望があり、家族と職員で話し合いその後の対応に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議の開催により民生委員や老人会の方々との交流ができ、地域の行事に参加するようになってきた。グループホームの内容についての回覧板をまわして地域の理解を深める努力をしている。隣接のデイサービスで小・中学生の体験学習やボランティアの訪問がある時には出来るだけ参加させてもらい交流の機会を作るように努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、設立時に策定した理念を見直し、全職員で話し合い新たな事業所の理念「お一人お一人の気持ちを尊重し、住み慣れた地域で安心して過ごせるようにします」を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフは理念を共有しており、理念に基づいた支援を実践するために、1日3回の申し送り、月1回のミーティング、日々の生活の場等において常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人としては自治会には加入していないが、運営推進会議の開催により老人会や民生委員の方との交流が出来て地域の行事に参加するようになってきている。地域の方にグループホームを理解してもらうために回覧板をまわしたり、併設のデイサービスに小・中学生の体験学習やボランティアの訪問がある時には、一緒に参加して交流の機会を作るように努めている。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を踏まえて、全職員で話し合い、改善に取り組み、一部の項目以外についてはクリアしている。今回の自己評価は全ての職員で話し合って作成したものである。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の評価結果を踏まえて、昨年10月より定期的(偶数月の第1金曜日)に開催している。事業所からホームの状況、利用者の様子、外部評価の報告等を行い、会員からの意見や要望を聞いて意見交換をしている。会員から災害時の避難の問題やホームの理解のために回覧板の利用との話がでて、それらの意見をサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に運営推進会議に出席してもらい、職員や家族と意見交換をする機会を作っている。管理者は分からないことや不明な点を担当者を訪ねて相談しており、出来るだけ交流の機会を作りサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に写真等を見せながら利用者のホームでの暮らし振り等をお知らせしている。毎月請求書と一緒に金銭出納の内訳を報告している他、3ヶ月に1回、担当者が利用者の様子や体調、ホームの行事などの記録を写真と一緒に家族に送っている。又年に4回ホーム便りを発行している		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口を明記している他玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時には何でも話せる雰囲気作りを心がけ家族の意見を運営に反映させている。ある利用者の家族から食べ物についての要望があり、話し合っってその後の対応に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はないように配慮しており、これまでに職員の異動は行われていない。管理者の交代が1度あったが、1ヶ月間の引継ぎの期間を設け、出来るだけ利用者者にダメージを与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は出来るだけ研修会に参加する機会を作っている。これまでに認知症基礎研修・管理者研修・身体拘束研修・ノロウイルスの勉強会等に参加しており、内容は会議等で報告し職員は共有している。ノロウイルスについては実技指導を行い徹底させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、連協主催の交換研修や大会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学してホームの様子を知ってもらい、なるべく納得しての利用をお願いしている。場合によっては3泊4日程度のお試し利用をしてもらうこともある。入居した場合は出来るだけ早く馴染んでもらえるように、職員が接する時間を多く持つようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、うどん・ぎょうざ・すいとん等の作り方や子供の育て方について教えてもらう場面が見られる。食事の準備や掃除など利用者が出来ることはしていただき、共に楽しみながら支えあう関係を大切にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者からの情報・利用者の生活歴・日ごろの言動・何気ない日常のしぐさや会話などから一人ひとりの希望や意向の把握に努めて、職員はそれらの情報を共有して日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い・意向等の情報を基にカンファレンス等で話し合い、職員の意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスの中で随時検討し対応を考えている。毎月又は何かあった時に細かく見直し現状に即した介護計画を作成している。	○	新たな要望や変化が見られない場合でも、本人や家族の意向や情報を確認すると共に、「月1回のモニタリングと3ヶ月に1回の見直しについて」話し合いの機会を持って欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合に応じて通院支援、買物同行、理美容院の送迎等の個別の支援を行う等、柔軟な支援体制が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族が同行しているが、家族の都合により職員が通院支援をし、電話等で状況を報告し共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として、「利用者が入院治療が必要となった場合、必要なサービスを提供することが困難になった場合は適切な他の方法を考える」と重要事項説明書に明記しており、家族・職員共に共通の認識を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ、対応について、日々のケアを振り返りながら支援に取り組んでいる。又個人の記録の漏洩については会議等で話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のリズム・思い・意向を大切に考えて一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。訪問時もおしゃべりを楽しむ人、昼寝をする人、タバコを吸っている人とそれぞれが自由な時間を過ごされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員の声かけ等により一緒に食事の準備をし、全員が同じテーブルで楽しみながら食事をし、片付けも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には月・火・木・金となっているが、利用者の希望によりいつでも入浴することが出来る。職員の勤務時間の関係で入浴の時間は午前中(10時～12時)とおおよそ決まっている。入浴を好まない方に対してもタイミングや対応のしかたの工夫により、少なくとも週に2回の入浴を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴・能力・趣味等に合わせて洗濯物干しやたたみ・食事の片付け・モップかけ・ごみ出し・散歩・ドライブ・月2回の外食(回転寿司、山田うどん等)等、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。隣接するデイサービスに遊びに出かけるのを楽しみにしている方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調、職員の人数等を考えながら、散歩・ドライブ・外食に出かける等出来るだけ戸外に出る機会を作るよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態により施錠することもあるが常態化はしない。現在は職員の見守り等により施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て避難訓練をしている。マニュアルが出来ており、昼夜を想定した訓練や消火器の使用についても学習している。運営推進会議において災害時の避難について話し合いがあり、地域の方には協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた食事を提供しており、食事の摂取量はチェックして記録に残している。水分については利用者の体調や摂取量の少なめな方に対して配慮しているが全員についての記録はない。	○	高齢者にとって水分の摂取は健康維持のために特に大切なことなので、食事の摂取量と一緒に水分の摂取量についても記録に残して職員が共有することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりとして明るくテーブル・椅子・ソファ・テレビ等が設置されている。また畳のコーナーがあって、利用者それぞれが好みの場所で過ごせるようにとの配慮が見られる。台所からは食事の準備の音や匂いが、窓からは田園風景が眺められ、生活感や季節感を感じることが出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中には2~3日で帰宅するつもりの方もあり、比較的馴染みの物の持込は少ないが、テーブル・椅子・時計・使い慣れたタオルケットなどが持ち込まれており、利用者一人ひとりにあった居室作りの工夫が見られる。		